

公益財団法人こころのバリアフリー研究会

Newsletter No.15

2022.3.29

会員みなさまへ

(財)こころのバリアフリー研究会 理事長

秋山 剛

信じられないことに、21世紀になって、隣国に自分の言うことをきかせるために戦争をしかけるといふ事態が起きてしまいました。この戦争で、1000万人とも言われる難民が発生しています。私が次期理事長を務めている世界精神保健連盟では、どのような支援が可能なのか、現在、話し合いをしているところです。

今回のニュースレターでは、新しく会員になってくださった、国際的な視野をもたれている精神科医の清水俊宏さん、プログラム委員をお引き受けいただいた、横浜市の地域精神保健の発展に尽力してこられている田原智昭さん、作業療法士として就労支援などをされている小野瀬智さん、元会社員で現在スピーカーズ・ビューロで活動されている小松雅貴さんの自己紹介があります。

こころのバリアフリー研究会には、いろいろな方がいますので、お互いの活動について情報交換したり、何かの企画を一緒にやっていただいたりなど、ネットワークを有効に使っていただければと思います。そのためには、自己紹介、イベント紹介（アピールでもよいと思います）の場として、是非ニュースレターでを活用してください。



目次 1頁 理事長からの挨拶

2～3頁 新入会員

清水 俊宏（埼玉県立精神医療センター）

総会新プログラム委員

田原 智昭（横浜市総合保健医療センター）

小野瀬 智（社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会）

小松 雅貴（仙台スピーカーズ・ビューロー）

清水 俊宏（埼玉県立精神医療センター）

埼玉で精神科医をしている清水俊宏と申します。精神科救急や依存症の治療に関わっております。この度、ご縁があって本研究会に入会させていただくことになりました。

私は医療と関係のない職業を経てから医学生となりました。医学生・研修医の頃から「先生」と呼ばれ、違和感を感じながらも郷に入れば郷に従えで過ごし、今や白衣を着て「先生」と呼ばれることにすっかり慣れてしまいました。しかし、これでいいのだろうか？とっていました。

本研究会では、「先生」を使わず、「さん」で呼ぶ、という指針があるのは大変興味深く、妙に新鮮で、示唆に富むことだと感じました。「先生」の関係か？「さん」の関係か？治療者・支援者としての有り方、患者さんとの関わり方について問いかけられていると感じました。どちらが良いかは、きっと治療の段階にもよるし、個別性の高いことでしょう。精神疾患の多くは慢性疾患で、疾患を抱える患者さんのリカバリー支援には、「精神医療の専門家」と「自分自身の専門家」の両者の協力が大切だと言われます。「先生」と呼ばれ慣れている精神科医に対しては、「さん」の関係となることは、等身大の人間となるように求められているように感じました。患者さんに対しては、精神科医を「さん」と呼ぶことで精神科医を権威付けし過ぎず「自分自身の専門家」として確かに歩むことを求めているように感じました。

患者さんがリカバリーの道を歩む時に、精神科医として、人として喜びを感じます。そんな場面にたくさん巡り合えるよう、本研究会を通して視点を広げ、気づきを得たことを日々の臨床に生かして行きたいと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

田原 智昭（横浜市総合保健医療センター）

この度、令和4年度総会のプログラム委員を拝命しました、横浜市総合保健医療センターの田原智昭と申します。

3月現在、杉浦寛奈さんや、植田太郎さんと一緒に、シンポジウムテーマ「精神医療と人権」を担当し、シンポジスト予定者の皆さんを含めて、抄録の検討、それぞれが話題としたい内容に関しての報告・調整等を行っております。

私は普段は地域の障害福祉サービスに携わる立場です。直接医療に携わらない立場だからこその視点を大事に、会員の皆様にとって、有意義な時間になるよう6月の本番に向け準備を進めていきます。

コロナ禍での開催となることから、直接対面での交流は難しいことが予想されますが、コロ



ナ禍・オンラインだからこそその繋がり創造され、こころのバリアフリーが益々促進される場となるように努めていきたいです。

小野瀬 智（社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会）

現在、大田区障がい者総合サポートセンターにて、就労支援に携わっております小野瀬智と申します。この度、「こころのバリアフリー研究会総会プログラム委員」に参加させていただくこととなりました。

私は作業療法士で、以前は訪問看護ステーションや自立訓練で退院後の地域での生活の安定や機能訓練を目的とした活動をしておりました。現在は、就労移行支援及び就労定着支援の業務を行っております。

今回いただいた機会を通じて、さまざまな領域でご活躍されている皆様からたくさんのことを学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

小松 雅貴（コマツ マサタカ）
（仙台スピーカーズ・ビューロー）

皆さまはじめまして。このたび、こころのバリアフリー研究会総会プログラム委員を拝命しました小松雅貴と申します。どうぞよろしくお願い致します。



私は33歳まではごく普通の会社員でした。そんなある日会社に向かうため地下鉄に乗車した瞬間、すぐ降りてしまいました。「もうどうでもいい」というのが頭の中をしめていました。治療に前向きでもなく、ただ家にこもるだけの日々を4年間過ごしました。セルフスティグマに囚われていたのだと思います。

そんな私が仙台スピーカーズ・ビューロー（精神障害を持つ当事者が、自分の体験を語るにより偏見の是正を行う団体です）に繋がり、このような大役を担うようになるのは夢にも思いませんでした。他の委員の方々と比べて知識も経験もなく「自分にはできるのだろうか」と不安でいっぱいです。ですが、精神保健医療福祉の啓発という目的に、微力ながら私の経験が活かされればと思っております。